

Contents

イベントセミナー情報

技術情報

CPD(継続職能研修)

建築家資格制度

組織一覧

頒布図書

頒布資料

Bulletin on Line

広報から

アーカイブ

JIA関連サイト

JIA Bulletin 2015年3月号ノアークトリップ実行委員会

第76回アークトリップ見学記
 富士山山麓に展開する建物訪問



都市デザイン部会 副部会長
 西田 恭子

11月25日にJIA関東甲信越支部 アークトリップ実行委員会主催の「秋、世界文化遺産富士山の麓に展開する建築を訪ねる」会に参加した。

今回の訪問先は「倫理研究所富士高原研究センター」「HOTO FUDO(ほうとう不動東恋路店)」「日本盲導犬総合センター」でそれぞれ設計に関わられた方の説明を受けながらの見学で、貴重な体験となった。

バスを借り切ったの見学会参加者は、総勢38名。神田に朝8時集合し、8時10分には素晴らしい統率力で出発した。到着までの車中では、戦後日本初の超高層層が間ビル建設に携わった方々や伊東豊雄氏のコンペへの取り組みのDVDを見ながら、この会での研修は開始された。鹿島建設の現場では日本建築の革命と言われたビル建設への高揚が伝わり、また伊東氏の仕事ぶりでは40人のスタッフと建築の常識を打ち破る斬新さを求めながら、せんだいメディアテークを一例として、そこにいる人が自由にふるまえる空間づくりの過程を見ることができた。

その日は残念ながら雨模様であったが、DVDが終わる頃には車窓にははたわわになる静岡のみかんが見えてきた。



「内省」と呼ばれる座禅のような特別講座を行う講堂

まず1番目の見学地、倫理研究所富士高原研究センターでは担当チーフ内藤廣建築設計事務所の古野洋美さんが案内してくださった。

金物を使わない緻密な集成材架構の大屋根がダイナミックな内部空間を作り出し、大きく広がった窓からは富士山麓が広がる設計となっている。

「内省」と呼ばれる座禅のような特別講座を行う講堂は、高さ約6Mの放射状の屋根が組みられ、先端がせめぎ合うは先を細くすることや対角線上に組み上げることで出来上がっていた。ダクトに集約している設備はメンテナンスもしやすいものとなっている。参加者も木の持つ造形美に圧倒されながらも、PC板との止め方など、構造への質問が続いた。

朝早くの集合ですっきりお腹がすいた次の見学地では、おいしい鉄なべで豪快に食べるかぼちゃ入りほうとうどんが待っていた。そしてこの富士山麓の郷土料理店は数店舗あるチェーン店であるにもかかわらず、他の店舗とは全く違うたずまいに驚いた。木造建物ののれんをくぐってのイメージとは全く正反対の鉄筋コンクリートサンドイッチ構造で真っ白な流線型の建物だ。設計者である保坂猛さんは「富士山に浮かぶ雲が着地したような建築をイメージした」と話されていた。客席内部は珪藻土仕上げの3次曲面で作られ、4方向に設けられた半円形の開口部はそれぞれ形状が異なり、そこから自然光を取り入れている。



鉄筋コンクリートサンドイッチ構造の内部



点字ブロックが中央に配置された廊下

そして最後に千葉学さん設計の日本盲導犬総合センターを訪れた。一般の人も受け入れ、盲導犬の育成だけでなく、引退犬もともにいる日本に前例のない盲導犬センターだ。オウム真理教の跡地という負の歴史を背負った地域を、新しい地域の活動拠点として考えられている。犬舎とトレーニングフィールドがセットして作られ、犬舎にとりつく回廊と片流れ屋根の繰り返しは、富士山のすそ野が持っている方向性の強さに圧倒されて形が決まったと千葉氏は話されていた。

今回の3施設とも近くて大きな富士山があつてこそ、富士山麓に展開する代表的な建築作品といえるだろう。紅葉の美しいこの時期に訪れることができたことに感謝している。

〈西田設計事務所〉